



**特集** 出かけてみよう、ドライブ旅行

一般社団法人 日本自動車工業会



風を切って、  
気ままに走るバイクの気持ちよさ。

## 寄り道は バイクならではの 旅の醍醐味!

ちょっと寄って行こう、  
これ食べて行こう!  
予想しなかった展開や  
意外な発見をいっぱい集めよう。

気の向くままに、  
好奇心の向くままに、走ろう。

さあバイクで、  
**Let's YORI-MICHI Touring!**

安全運転で楽しいツーリング!!

バイクの正しく安全な使い方については <http://www.anzen-unten.com>

**JAMA** 一般社団法人 日本自動車工業会  
JAPAN AUTOMOBILE MANUFACTURERS ASSOCIATION, INC.  
〒105-0012 東京都港区芝大門1-1-30 日本自動車会館

## CONTENTS

### 特集 出かけてみよう、ドライブ旅行

#### ドライブ旅行のいま -調査から見るクルマの旅-

2

／株式会社JTB総合研究所 主任研究員 早野 陽子

#### 「絶景」が待つドライブ・ロード

9

／クルマ旅専門家 稲垣 朝則

### スペシャル イベントレポート

#### 「バイクの日 スマイル・オン2016」

15

～女性ライダーたちが、バイクの魅力と安全運転の大切さをアピール～

／モーターマガジン社 神原 久

### 記者の窓

#### 「あの日の視線に思うこと」

20

／東京新聞 妹尾 聡太



### 表紙イラストレーション

#### クルマのある風景

やまざき りな  
山崎 梨奈

日本大学 芸術学部  
デザイン学科 2年

新しく生み出す、というイメージで制作しました。季節感を出したかったので落ち葉をモチーフに、秋を感じさせるような配色を目指しました。

『JAMAGAZINE』では表紙に、美術を専攻している大学生などの皆さんの作品を掲載しています。

### ドライブ旅行のいま —調査から見るクルマの旅—

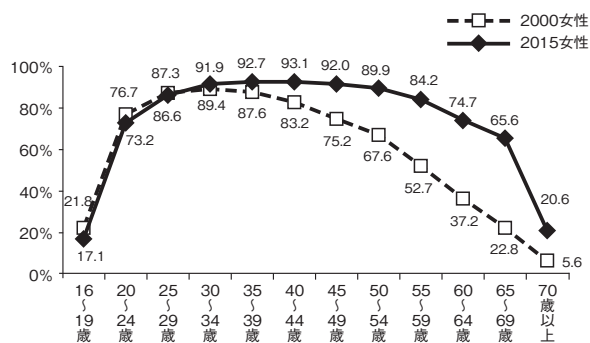
株式会社JTB総合研究所 主任研究員 早野 陽子

時間に拘束されず、気ままに楽しむことができるドライブ旅行は、日本のモータリゼーションの進展とともに多くの人が楽しむレジャーのひとつとして定着してきた。近年の少子高齢化に伴い、「若者のクルマ離れ」といったこともささやかれているが、実際はどのようなのだろう。どのような人々が、どんなふうにドライブ旅行へ出かけているのだろうか。ここでは、旅行全体の中でのドライブ旅行の位置づけや実態、今後のドライブ旅行への意向などについて、各種のオープンデータ、及び、JTB総合研究所が実施したアンケート調査データをもとにひも解きたい。

#### 1. ここ15年で免許保有率が急拡大した熟年女性

ここ15年における免許保有率の変化を男女別、年代別にみると、女性の熟年層の免許保有率が大きく上昇していることがわかる（図1、2）。

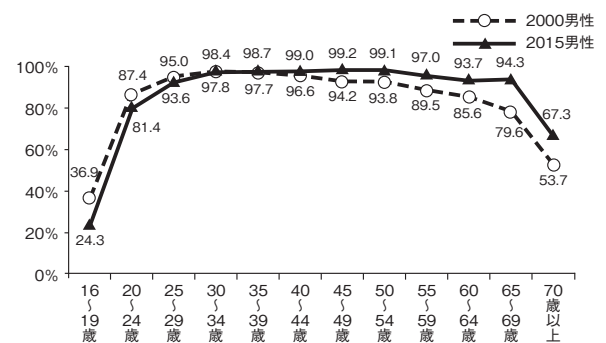
図1●普通運転免許保有率（女性）



出典：警察庁「免許証統計」、総務省「国勢調査」よりJTB総合研究所作成

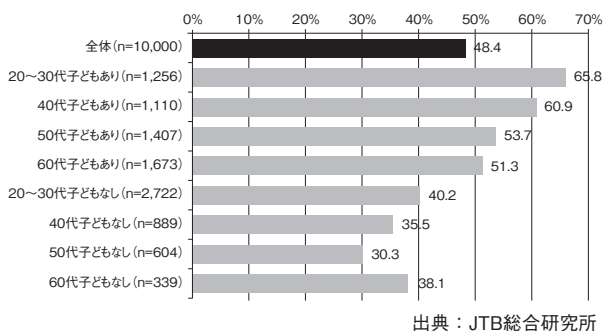
特に60代においては、2000年には60～64歳で37.2%、65～69歳で22.8%だった免許保有率が、2015年にはそれぞれ74.7%、65.6%と、2～3倍となった。戦後のモータリゼーションの中核を担った団塊世代が60代後半になったことが背景にあると考えられる。団塊世代は就職とともに大都市に移住し、都市郊外のニュータウンに新居を構えた世代だ。現在でも都市郊外に居住し、最寄駅まで家族を送迎するなど日常的にクルマを活用している人も多い。ペーパードライバーではなく、運転に慣れていれば、レジャーにもクルマを活用することは想像に難くない。熟年女性の旅行といえば、団体型の電車やバスツアーのイメージが強かったが、団塊世代以降の女性では、より免許保有率が高くなる。今後は女性が自由にクルマで動くドライブ旅行がごく当たり前のものになるだろう。女性が楽しめるサービスや仕組みづくりなど、ドライブ旅行を女性の目線でとらえなおすことが求められるそうだ。

図2●普通運転免許保有率（男性）



出典：警察庁「免許証統計」、総務省「国勢調査」よりJTB総合研究所作成

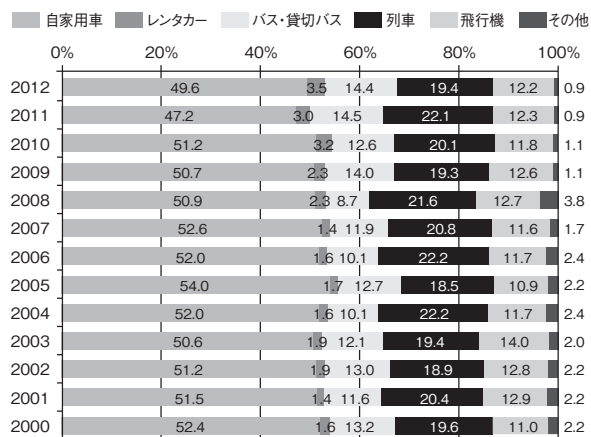
図3●自家用車での旅行経験（過去2年以内）



## 2. 国内旅行全体の約50%がクルマを利用したドライブ旅行

では国内旅行全体の中で、ドライブ旅行はどのくらいの割合を占めているのだろうか。調査結果では、過去2年間における自家用車での旅行経験率は全体で48.4%、20~30代で子どもがいる回答者では65.8%となった（図3）。参考までに公益財団法人日本交通公社が実施した「旅行者動向」調査の結果を時系列でみてみると、過去10年ほどにわたって全体のほぼ50%がドライブ旅行、2010~2012年の調査を合算した結果では、家族旅行におけるドライブ旅行は65.4%だった（図4、5）。国内旅行では、クルマを利用した旅行は主流であり、特に小さい子ども連れの旅行には欠かせない交通手段であると言える。

図4●目的地までの主な交通手段



## 3. 若者のドライブ旅行は二極化傾向

次にドライブ旅行の頻度と移動時間を年代別に見てみると、2013年の調査では、「年に3回以上ドライブ旅行をしている」と回答した人は60代で最も高く、23.0%。50代の20.0%、20代の17.5%と続いた。20代は「年に3回以上ドライブ旅行をする」割合も比較的高いが、「まったくしない」割合は40.5%と最も高く、ドライブ旅行をする層としない層に二極化する傾向が見られた（図6）。

移動時間に関しては、若いほど移動時間が短くなる傾向が明らかだ。60代では「2時間以内」の割合は6.0%だが、20代では22.7%。60代は8時間以上の移動時間の割合も18.5%であり、かなり長時間の移動をしている（図7）。若者は「どこに旅行へ行くか」より「だれとどんな時間を過ごすか」を重視し、旅行先の食事でも行き慣れた居酒屋チェーンを選んだり、コンビニのお弁当で済ませたり、といった傾向が過去の調査結果からもみられる。移動時間はあまりかけず、できるだけ現地での時間を楽しみたいという意向が隠れているのかもしれない。また、「旅行」という概念自体も変化しつつある。コンサートに行く、芸術祭に行く、合宿に行く、など特定の目的がある場合に

図5●目的地までの主な交通手段

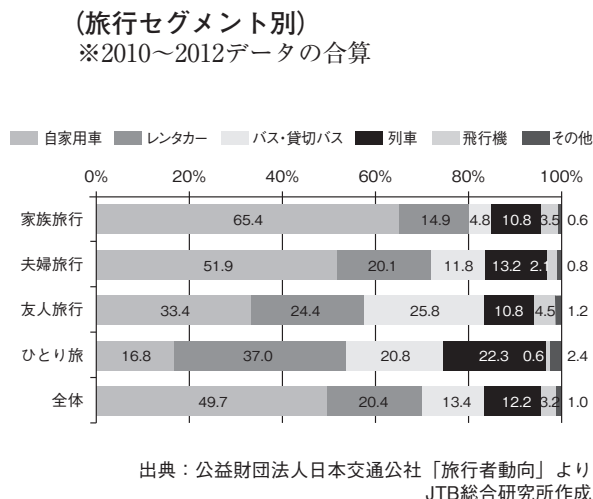


図6●宿泊を伴うドライブ旅行の頻度

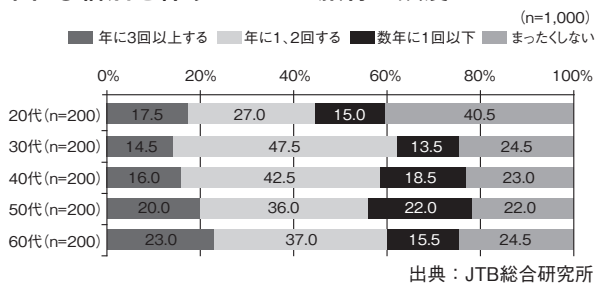
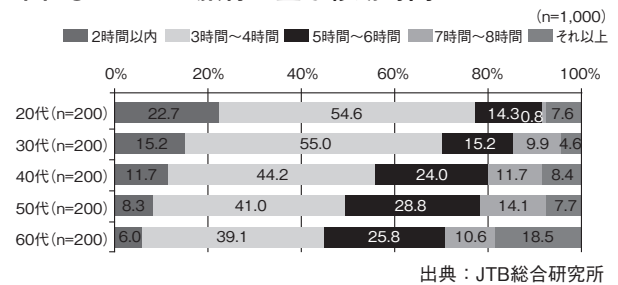


図7●ドライブ旅行の主な移動時間



は、たとえ観光が伴っていても「旅行」とは意識していない若者が増えた。多様化によって「旅行」に含まれないケースが増えたことも「旅行離れ」と言われる背景にはありそうだ。

## 4. 直近のドライブ旅行の実態

(1) 荷物が多きときや周遊型旅行はドライブ旅行  
直近の旅行の交通手段として、自動車を選んだ理由を聞いてみると、1位は「荷物が多きから (33.0%)」、2位は「クルマが好きだから (31.6%)」、3位は「いろいろな観光地を回りたいから (31.4%)」だった (図8)。

一方、鉄道を利用した理由の1位は「距離が遠いから (33.5%)」、2位は「旅先での交通の便が良さそうだから (25.8%)」、3位は「列車が好きだから (21.7%)」となった (図9)。

また、旅行の行程としては「単純往復」が

51.3%と最も多いものの、ドライブ旅行では「往復のルートがまったく別」が鉄道旅行を大幅に上回った (ドライブ旅行21.9%、鉄道旅行8.2%)。荷物が多い場合や複数の観光地を回る場合はドライブ旅行、遠方への旅行や交通の便が良い都市部などへの旅行では鉄道と使い分けられていることが考えられる (図10)。

(2) ドライブ旅行の不満は「駐車場を見つけるのが大変 (25.2%)」「渋滞 (25.1%)」「お酒が飲めない (21.1%)」

旅行を快適に楽しんでもらうためには、不満をいかに改善するかも重要な要素のひとつだ。では、ドライブ旅行については、どのような不満を持っているのだろうか。調査結果をみると、「駐車場を見つけるのが大変 (25.2%)」「渋滞 (25.1%)」「お酒が飲めない (21.1%)」が1位~3位となった (図11、12)。駐車場を簡単に探せるアプリやナビゲーションなどもあるが、ピーク時には満車が多

図8●自動車を利用した理由 (TOP10) (複数回答可)

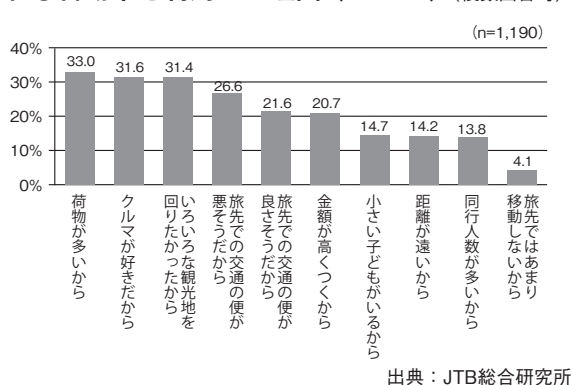


図9●鉄道を利用した理由 (TOP10) (複数回答可)

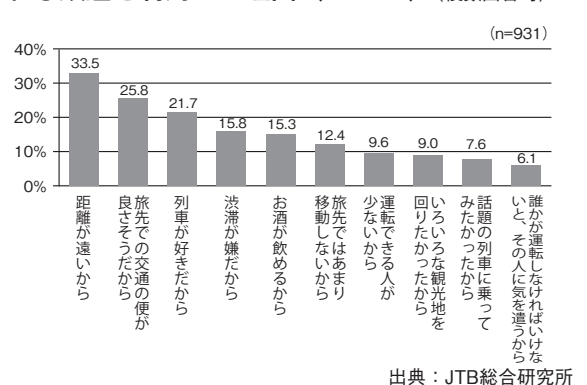
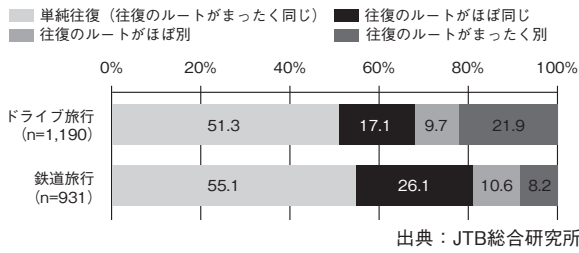


図10●旅行の行程



い、価格が高いなど、現状ではまだ十分に解決しきれてない問題がありそうだ。また、意外にも「二次交通が不便」という不満が20代では27.6%となった。20代は、旅行先で公共交通機関を併用して動く人も比較的多い(18.0%)ことから(図13)、二次交通に関する不満が高くなったとみられる。一方、お酒が飲めないという不満が20代では最も低いことは、昨今の若者事情を反映しているのではないだろうか。

(3) 旅行の情報源は「宿泊施設のサイト(23.9%)」。

観光協会や自治体のサイトも人気

直近の旅行について、旅行を思い立ったきっかけを聞いてみると、「友人や家族との会話(32.2%)」、「宿泊施設のサイト(13.7%)」が上位となった(図14)。また、旅行先が決まった後、旅行先について詳しく調べる情報源としては、「宿泊施設のサイト(23.9%)」が最も高かった。ドライブ旅行では、宿泊施設だけを自分自身で予約する場合も多いことから、宿泊施設のサイトの重要度が高くなるのだろう。また、観光協会のサイト、自治体のサイトはそれぞれ14.3%、10.5%となった。過去の調査から見ると、年々情報源として参考にする割合が高くなってきており、地域の詳しい最新情報は地域の方がよく知っているという期待や認識が広がってきたと考えられる。

旅行中の情報源としては、ポータルサイトでの検索、次いでガイドブックが高かった。スマート

図11●ドライブ旅行の不満 (複数回答可)

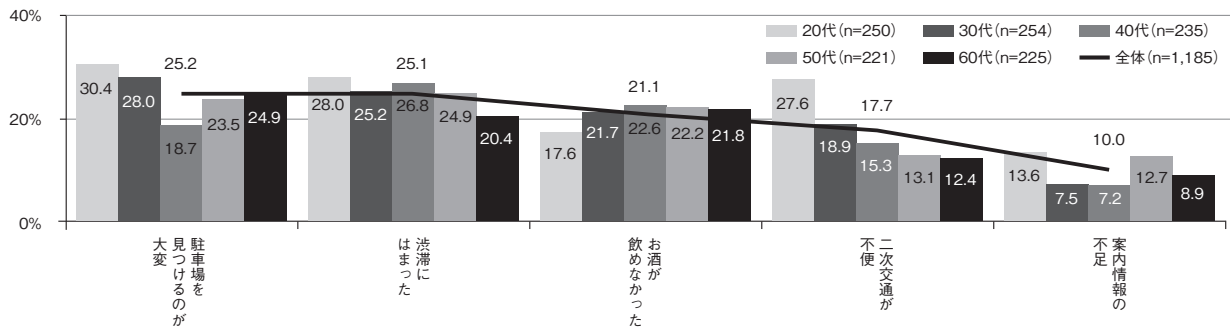


図12●鉄道旅行の不満 (複数回答可)

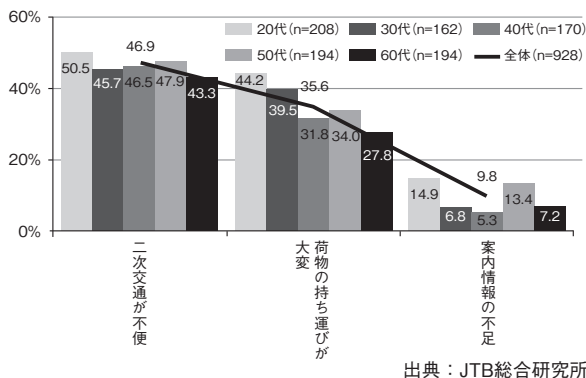
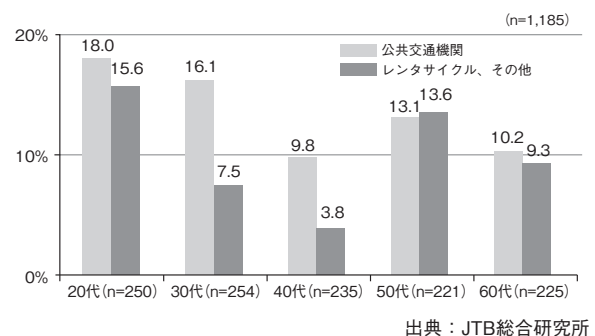


図13●旅行先で他に利用した交通手段 (ドライブ旅行) (複数回答可)



フォンが普及する中、旅行中に旅行情報を検索して調べることが多くなっているようだ。

#### (4) SNSやブログを通じた旅行体験の発信はドライブ旅行の方が“じっくり”

直近のドライブ旅行で、自分の旅行体験をSNSやブログなどを通じて発信したかどうかについて聞いた結果では、21.4%が発信をしたと回答した。年代別では、20代が最も高く、4割が発信している。主な発信先として割合が高かったのは、Facebook (12.2%)、Twitter (5.9%) の順だった。また、40代では、ブログも比較的多くみられた(図15、16)。

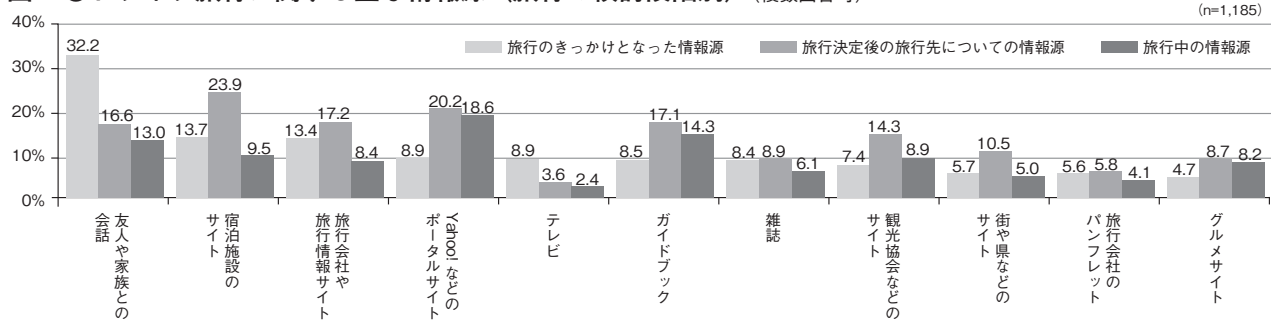
発信するタイミングは、運転をしているせいもあるのか、「自宅に戻ってからゆっくり」が39.5%と、鉄道旅行と比較して5ポイント高く、発信する内容も画像や写真を伴うものが多かった(図17、18)。

参考までに別の調査で、SNSなどで見かけた場合“いいな”と思う写真を選んでもらい、コレスポネンダンス分析を用いて性年代と好む写真との関係をみた結果を紹介したい。分析結果より、若い女性は、何かを体験している写真やキャラクター、40代女性は海外のリゾート、50代、60代女性は土産物、若い男性はスポーツや祭り、40代～60代の男性は音楽や電車などを好むことがわかった。女性はだれかが何かをしている「シーン」、若い世代は「動的」な画像に反応する傾向があるようだ(図19)。

#### (5) 今後、「ドライブ旅行の頻度を増やしたい」は全体で34.6%。20代男性46.6%、20代女性47.9%

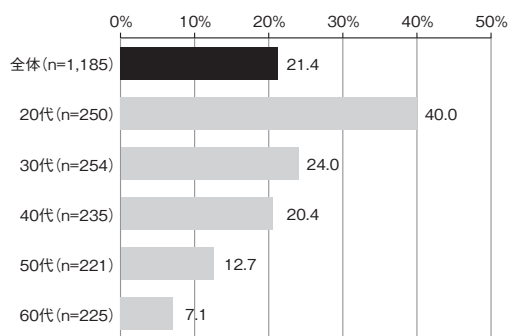
今後、ドライブ旅行の頻度を増やしたいかどうかを聞いた質問では、全体の34.6%が「増やしたい」と回答した。性年代別では、特に20代の男女でドライブ旅行を増やしたいという意向が強く見

図14●ドライブ旅行に関する主な情報源(旅行の検討段階別) (複数回答可)



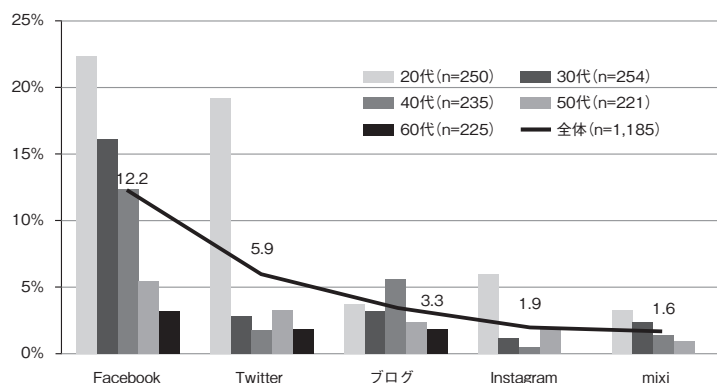
出典：JTB総合研究所

図15●ドライブ旅行体験を発信した人の割合



出典：JTB総合研究所

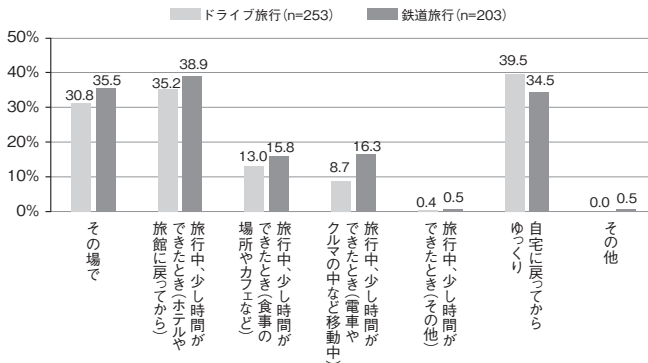
図16●ドライブ旅行体験の発信先(複数回答可)



出典：JTB総合研究所

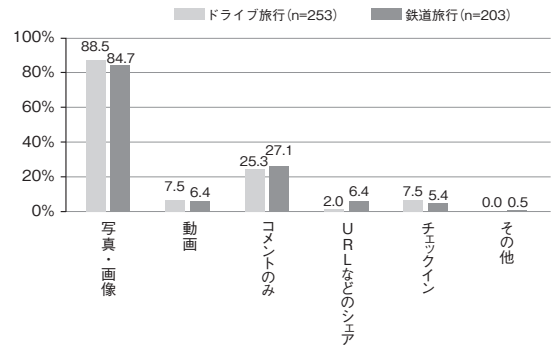


図17●旅行体験をSNSやブログで発信するタイミング (複数回答可)



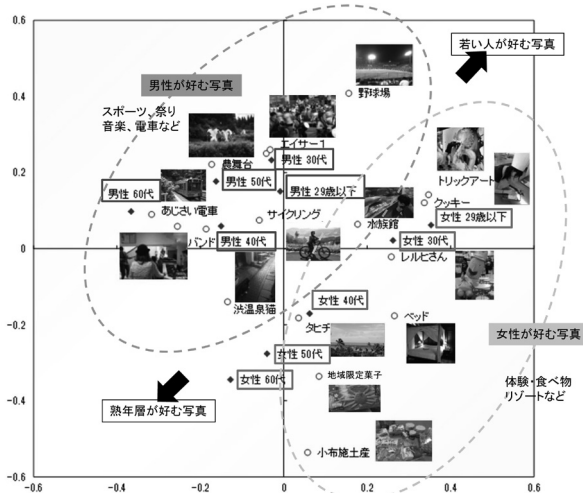
出典：JTB総合研究所

図18●旅行中の体験をSNSやブログで発信する形態 (複数回答可)



出典：JTB総合研究所

図19●性別・年代と好む写真との関係



出典：JTB総合研究所

られ、それぞれ46.6%、47.9%となった(図20)。増やしたい理由としては、「自分の時間に余裕ができたから(46.6%)」、「ガソリン代が安くなったから(23.4%)」が高い(図21)。過去の調査結果からもガソリン代が安くなると、帰省も含めドライブ旅行が増える傾向が見られ、環境による影響は大きいと考えられる。また、前述した「ドライブ旅行を選んだ理由」で「クルマが好きだから」を選んだ割合を年代別にみると20代では36.0%と全体の31.6%を4.4ポイント上回っており、若者のドライブ旅行が二極化する中、クルマ好きな層は、よりクルマを利用した旅行をしたい気持ちがあるのだと考えられる。

## 5. まとめ

調査結果から、ドライブ旅行が旅行全体に占める割合は約半数、子ども連れの旅行ではさらにその割合は高まり、ドライブ旅行が重要な位置を占めることが明らかとなった。

旅行の行程をみると、ドライブ旅行は鉄道旅行に比べて行動の自由度が高いことから、あまり計画を立てず、行き当たりばったりで動くのではないかという予想に反し、「単純往復」が最も多かったが、往復のルートがまったく別である周遊型の割合も多く、複数の観光地を効率的に回れる手段として自動車を活用されている状況も明らかとなった。

次にドライブ旅行への不満から、今後の可能性を考えてみると、駐車場、荷物の預け場所、二次交通や案内情報の充実が不可欠である。特に若い世代では、ドライブ旅行であっても、旅先で公共交通機関など他の交通手段を併用する場合も少なくない。近年では、地域の環境保全や渋滞の緩和などに配慮してパーク・アンド・ライドなども増えてきた。また、レンタサイクルなど、実際に現地へ行って初めて存在を知ったという声も聞かれる。事前に駅などターミナルの中だけではなく、周辺の情報をわかりやすく伝える工夫も重要だ。

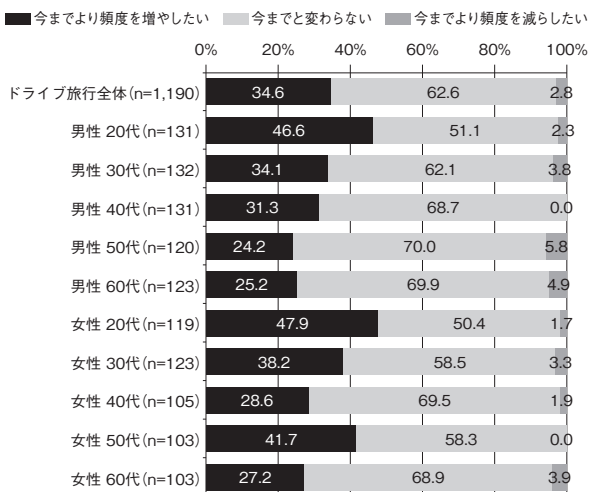
今後の旅行への意向を見ると、20代の男女ではドライブ旅行を増やしたいと考えている人が他の年代よりも高くなった。若者のクルマ離れ、旅行離れなどとも言われるが、世界では、現在20～30代前半の若者はICT技術を駆使し、新しい消費の形を創る“ミレニアル世代”として注目されている。また、バブル世代の子どもにあたり、小さいころから家族旅行経験も豊富で旅行好きも多い世代であることから、今後の動きが期待される。また、免許保有率が高まっている熟年女性の動きにも目が離せない。

ソーシャルメディアの普及によって実現したシェアリングエコノミー（空きリソースを共有し

成り立つ経済の仕組み)のひとつとして、カーシェアリングや空きのある月極め駐車場や住宅の駐車場を利用できるサービスなども広がってきている。また、自動運転技術によって、安価な循環バスの充実や疲れずに長距離ドライブをすることも可能となるだろう。大手都市銀行がコールセンターの対応に、人の言葉を理解する人工知能を導入したことも記憶に新しいが、ミレニアル世代が観光市場の中心となるころには、かつてないほどのスピードで進む技術の進展が、これまで解決できなかった問題点を解決するブレークスルーを与えてくれそうだ。

(はやのようこ)

図20●今後のドライブ旅行への意向



出典：JTB総合研究所

調査概要

調査対象者：日本全国に居住する20歳以上の男女で、過去2年以内に1回以上、宿泊を伴うドライブ旅行をした人1,190名、宿泊を伴う鉄道旅行をした人931名（重複あり）を10,000名の調査パネルより抽出

調査方法：インターネットアンケート調査(2015年5月8日～13日)

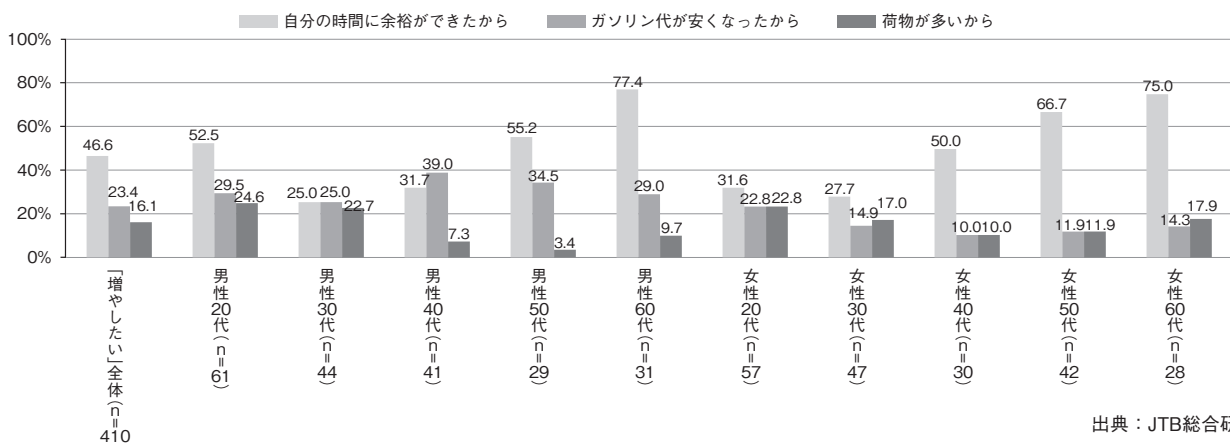
ドライブ旅行の定義：

自家用車、もしくは自宅近くからレンタカーや友人のクルマを借りて行く旅行(宿泊を伴うもの。また家族・友人等に載せてもらう場合も含む)

参考資料

- ・JTB総合研究所 スマートフォンの利用と旅行消費に関する調査(2015)
- ・JTB総合研究所 東日本大震災後の生活行動や消費の変化に関する調査(2)(2013)

図21●ドライブ旅行を増やしたい理由(複数回答可)



出典：JTB総合研究所

## 「絶景」が待つドライブ・ロード

クルマ旅専門家 稲垣 朝則

### 1. 「絶景」と出会う秘訣

実は「絶景」と出会える場所は2つある。ひとつは「展望台」だが、その多くはクルマを停めた後、リフトやケーブルカーに乗るか、石段や山道を歩いてアプローチするところに設けられているため、厳密にはドライブでなくてもかまわない。

今日お話しするのは、もうひとつの「車窓から見える絶景」だ。もちろん先ほどの「展望台」がその途中にあるケースは多々あるが、そこに辿り着く前に、フロントガラスいっぱいに絶景が広がる感動を味わうことが、自らハンドルを握る本当の価値だと筆者は思う。

では、そういう場所はどんなところに多いのだろう。具体的なスポットは後述するが、その前に「絶景」と出会う秘訣を紹介しておこう。

答えは「峠」にある。絶景がフロントガラスに飛び込んでくるのは、海でも山でもワインディングロードを下り曲がる瞬間だ。



北海道でも屈指の絶景地と呼ばれる美幌峠。この先のカーブを曲がる瞬間の景観は、展望台からの眺望をはるかに凌ぐ迫力だ。

### ●美幌峠（北海道）

イントロ代わりに、その美幌峠で絶景に出会うための留意点を紹介したい。

まず大事なことはコース取りである。屈斜路湖がフロントを埋め尽くし、一瞬このままダイブしてしまうかと思ふ錯覚に陥るのは、美幌峠から国道243号を弟子屈方面<sup>てしかが</sup>に下る最初のカーブだが、弟子屈から美幌峠に登ってくる際は、屈斜路湖がまったく見えない。

次は天候だ。大きな峠というのは霧が出やすいが、北海道は真夏でも霧が出る。しかも美幌峠は霧で有名な摩周湖のすぐ近くにある。だが幸いなことに、峠の最上部には道の駅「ぐるっとパノラマ美幌峠」があり、そこにライブカメラが設置されている。1時間に1回の更新画像とはいえ、スマホなどのインターネット端末機で現地の天候が確認できるのはありがたい。但し北海道では、通信会社を考えて選ぶ必要があるだろう。



道の駅「ぐるっとパノラマ美幌峠」から、石の坂道を登ったところにある展望所からの景観。見えているのが屈斜路湖。

## 2. 絶景スポット1 北海道・美瑛

筆者が選ぶ北海道イチオシの「絶景」ドライブスポットは「丘の町」美瑛だ。隣接する富良野とともに、北海道を代表する夏の観光地となった美瑛には、確かに「いかにも北海道らしい」といえる風景が存在している。

何を隠そう、それは「畑」だ。つまり知床半島や礼文島とは違い、ここでは大自然ではなく、人の耕した大地が絶景を見せてくれる。そのスケールの桁が違っているのだ。

かつて蝦夷地と呼ばれた北海道には「開拓」の歴史がある。文献によると、「北海道」の名づけ親である松浦武四郎まつうらたけしろうがこの地を訪れたのは1859年。そのころはまだ一面の原野で、たまにアイヌ人が狩りに入る程度のところだったそうだ。本格的な入植が始まるのは、それから約40年後の1900年。この年に美瑛村が誕生している。

十勝岳の火山灰に覆われた地表と大きくうねる大地が、はたして農業に適していたかどうかは、素人でも容易に想像がつく。ドラマ「北の国から」で描かれてきたように、富良野や美瑛が現在に至るまでの道のりは、けして平坦なものではなかっただろう。

さて。そんな美瑛をまわるツアーバスは、いまだに遙か昔のCMに登場する「ケンとメリーの木」や「セブンスターの木」、さらには「マイルドセブンの丘」を車窓から眺めた後、「拓真館」たくしんかんに立ち寄り、この地を後にしているようだ。しかしマイカーなら、ここでは違う楽しみ方がある。

カーナビゲーションが役に立たないほど広大な美瑛の畑は、「点」だけ見てまわっても意味はない。ここでは畑全体が絶景を成しており、さまざまな場所から「面」を見て楽しむのが本筋だ。そのためには既成概念にとらわれず、自分の審美眼を信じて縦横無尽に走るといい。但し、農作業の邪魔



美瑛の代名詞は「パッチワークの丘」。



名もなき場所にも「絶景」はある。自分だけのベストアングルを見つけ出そう。

にならないよう配慮しよう。

最後に美瑛の基本的なドライブルートを紹介する。パッチワークの丘は国道237号を挟んだ両側に広がっているが、旭川に向かって左側が「ケンとメリーの木」や「セブンスターの木」などが見られるエリアで、現地ではそれらを結ぶルートを「パッチワークの路」と呼んでいる。

一方、国道237号の右側には「三愛の丘」「新栄の丘」と「拓真館」を結ぶ「パノラマロード」があり、その先は十勝岳の登山口に当たる望岳台へと続いている。

冒頭で、美瑛では「人が手がけたものが絶景」と書いたが、十勝岳の麓まで足を運べば、自然がもたらす絶景も加わってくる。白金温泉付近には、美瑛川特有のブルーに輝く水をたたえた「青い池」と、その美瑛川に岩肌から染みだした地下水が流れ落ちる「白ひげの滝」がある。

また望岳台に近い溶岩のガレ場には、日本では北海道でしか見ることのできない野生の「ナキウサギ」も生息している。

### 3. 絶景スポット2 信州・志賀草津高原ルート

今度は日本を代表する山岳観光道路をガイドする。「志賀草津高原ルート」とは、国道292号のうち、長野県の湯田中・<sup>ゆだなか</sup>・<sup>しぶ</sup>温泉郷と、群馬県の草津温泉を結ぶ約41キロ間の通称で、長らく一般有料道路の「志賀草津道路」として運用されてきたが、1992年に無料開放された。

途中にある渋峠は標高2,172メートルの国道最高地点に当たり、近くにある横手山のドライブインからは、晴れば北アルプス、南アルプス、中央アルプス、さらには御嶽山、浅間山、そして富士山までが横並びで眺望できる。「パノラマ」とは、このような景色を指して言うのだろう。

「パノラマ」といえば、長野県のビーナスラインにある霧ヶ峰付近からも、同じように日本の名だたる山々が眺められる。特にニッコウキスゲが一斉に花を開く7月は際立って美しい。だが、ドライブコースとして比較した場合、車窓から絶景



北・南、そして中央アルプスの山々が一直線に並んで見える、横手山ドライブインからの眺望。



「志賀草津高原ルート」は「雪の回廊」をドライブできる数少ない道。

が楽しめる時間の長さ、観光スポットのバリエーションが豊かなのは、明らかに「志賀草津高原ルート」のほうだろう。草津温泉に近づくにつれて景色は変わり、火山の息吹が生々しく感じられるようになる。ハイライトは「湯釜」を抱える草津白根山だが、現在は火山活動の活発化に伴う入山規制が行われている。

なお「志賀草津高原ルート」は、11月上旬～4月下旬は冬季閉鎖される。その前後に行く場合でも、スタッドレスタイヤが望ましい。

「志賀草津高原ルート」では、冬季閉鎖が解除された直後に「雪の回廊」を走ることができる。このような雪壁に挟まれた道路といえば、立山黒部アルペンルート上にある「雪の大谷」が有名だが、「立山有料道路」では通年のマイカー規制が行われており、バスか徒歩でしか通ることができない。それもあって、雪壁の高さでは遥かに及ばないが、例年冬季閉鎖が解除されるゴールデンウィークの時期になると、そのことを知る多くの観光客がやってくる。

ちなみに他では、岩手県と秋田県にまたがって走る「八幡平アスピーテライン」と、国内有数の豪雪地帯で知られる、青森県の<sup>すかゆ</sup>温泉がある「八甲田・十和田ゴールドライン」が有名だ。

最後に、「志賀草津高原ルート」の両端に当たる2つの名湯を簡単に紹介しておこう。長野県側の湯田中・渋温泉郷の見ものは、スノーモンキーで世界的に有名な「地獄谷野猿公苑」だ。風情があるのはやはり春先。できれば雪が残る時期のほうがおもしろい。

一方の草津温泉では温泉街の再開発が進んでおり、「湯もみ」の体験施設である「熱の湯」も2015年にリニューアルされている。日帰りで温泉を楽しみたい人には、湯田中・渋温泉郷よりも、名物の外湯が揃う草津温泉がお勧め。筆者のイチオシは草津に古くから伝わる「時間湯」が体験できる「千代の湯」だ。

## 4. 絶景スポット3 北陸・能登半島

次は目先を変えて「海の絶景」スポットを紹介しよう。全国に数多ある「海岸美」自慢のドライブ・ロードから、筆者がナンバーワンにノミネートするのは能登半島である。

外浦（日本海）と内浦（富山湾）の2つの海に面した能登半島には、他では見られない情景が点在する。しかもありがたいのは、それを戻ることなく、前に前に進みながら見て辿ることができる点だ。その意味からいうと、もともと半島や湖はドライブの旅に適している。

さて。内浦の絶景ドライブは氷見海岸から始めよう。晴れて空気が澄みきった日は、道の駅氷見の裏手に広がる富山湾の彼方に、雄大な立山連峰が姿を現す。かつては「雨晴海岸」からその姿を眺める人が多かったが、今は公園整備された氷見海岸のほうが安全でお勧めだ。また氷見から奥能登方面へは、2015年に開通した無料の「七尾氷見道路」ではなく、海岸沿いを通る国道160号を走れば、車窓からも海越しに立山連峰が楽しめる。但し山がくっきりと見えるのは、早春からゴールデンウィークのころまでだ。

七尾からは能登島に渡り、そわじ海岸に棲む野生のイルカ家族に会いに行こう。運が良ければ携帯電話で写真が撮れるほど近くにやってくる。

なお日帰りなら、能登島から穴水に出て「のと里山海道」を走って先に進み、半島をショートカッ

トして外浦の「塩の駅」をめざすといい。

能登半島の先端部で「絶景」が見られるのは、木ノ浦にある「椿展望台」だ。ここから輪島に向かって、現地で「奥能登絶景街道」と呼ばれる風光明媚な海岸沿いの道がしばらく続く。

NHKの連続テレビ小説「まれ」ですっかり有名になった、「揚げ浜式の塩田」が見えたら小休止にしよう。筆者のお勧めは「道の駅」ではなく「塩の駅」。ここでは海水撒きの無料体験ができ、名物の「塩ソフト」が食べられる。

続いての絶景スポットは「白米千枚田」だ。かつては隣接する道の駅の駐車収容台数が少なかったが、2014年に全面リニューアルされ、駐車場も拡張されている。

なお時間があれば、輪島では「マリントウン」にクルマを停めて、キリコ会館や朝市にも足を運ぶといい。先ほど半島先端部のショートカットを勧めたのは、あえてそういう時間を稼ぐためだ。いくら眺めが良くても、ドライブばかりでは疲れてしまう。なお輪島の外浦には、映画やドラマのロケ地となった「袖ヶ浜海岸」や「間垣の里」などの穴場がある。

さて、最後は駆け足でリアス式海岸が続く「能登金剛」をすり抜け、最終目的地である「千里浜なぎさドライブウェイ」をめざそう。ここは日本で唯一の4WDでなくても砂浜がドライブできるロングビーチだ。但し潮の干満と天候次第で通行止めになることもある。



富山湾越しに望む立山連峰は、北陸の春の風物詩。



砂浜をドライブできる「千里浜なぎさドライブウェイ」。

## 5. 絶景スポット4 富士山麓 山中湖

今度はドライブの距離は短いですが、際立つ景観が見られる「山」と「海」のスポットを紹介しよう。

まずは富士山から。その姿を圧倒されるほど大きく眺められる場所は、やはり静岡県と山梨県にある。とりわけお勧めなのは山中湖の周辺で、中でもドライブを絡めてとなれば、写真のパノラマ台が一番に思い浮かぶ。但し、感動を得るには秘訣がある。

パノラマ台は県道730号沿いにある小さな展望所で、ほとんどの観光客は山中湖から坂を登ってアクセスしてくる。しかし駐車場は小さく、停められない場合も少なくない。そのうえ途中の車窓からは、まったく富士山も山中湖も見えない。

しかし、反対に御殿場方面から下ってくれば、パノラマ台よりも遙か手前の三国峠を超えた瞬間に、写真の絶景が目に飛び込んでくる。冒頭で書いたように、絶景は峠を下り曲がるころにあるのだ。

さて。山中湖は富士山のビュースポットに恵まれており、一般的に有名なのは「忍野八海」おしの はっかいだろう。しかし車窓風景にこだわっているなら、パノラマ台の次は「長池親水公園」と「花の都公園」付近のほうが断然いい。

最後に、「ダイヤモンド富士」という言葉をご存知だろうか。富士山頂に太陽が重なるときの「瞬き」をそう呼ぶのだが、冬の山中湖では夕日のダイヤモンド富士を見ることができる。



御殿場と山中湖を結ぶ県道730号沿いにある、パノラマ台からの眺望。

## 6. 絶景スポット5 山陰 北長門海岸国定公園

写真は山口県の北西端にあって、北長門海岸国定公園の一画をなす<sup>つのしま</sup>角島と、そこに架かる一般道路橋としては日本で2番目に長い「角島大橋」だ。2000年の完成以来、その日本離れした景観から、トヨタ・レクサスあるいはスズキ・スイフトなどのCMに使われ、今では山口県を代表するドライブスポットとして、広くその名を知られている。

さて。北長門海岸国定公園とは、2015年の大河ドラマ「花燃ゆ」と、世界遺産への登録で再注目を集めた萩の城下町から、仙崎・青海島を経て角島に至る海岸線を中心に指定された国定公園で、角島周辺は西長門海岸県立自然公園から、1997年に北長門海岸国定公園に編入されている。その意味からしても、角島は萩から続くドライブ・ロードのハイライトスポットと捉えたほうがいい。

ただ旅行会社のツアーの多くは、往々にして萩から秋吉台に切れ込み、そのまま下関をめざしていく。確かに初めて山口県を旅するのであれば、天秤にかけると角島より秋吉台に気持ちが傾くのは当然だ。だが言い換えれば、それゆえに角島には「見残しの想い」を抱いて訪れる個人の観光客が多い。

ぜひ次回は自由の効く個人旅行で萩を訪ね、そこから「青海島自然研究路」や「龍宮の潮吹き」をまわって、角島まで足を伸ばしていただきたい。ドライブはレンタカーでかまわない。



角島大橋は、「走るより、見て楽しむ」。

## 7. 絶景スポット6 近畿 奥びわ湖パークウェイ

最後の1ページは、季節限定の絶景ロードの紹介に充てたいと考え、公平を期して、関西・関東からそれぞれ1カ所ずつ選ばせていただいた。まずは「春」から。桜が琵琶湖とともに愛でられる、関西屈指の観光道路を紹介しよう。

「奥びわ湖パークウェイ」は、正確にいうと琵琶湖の最北端に突き出た葛籠尾半島<sup>つづらお</sup>を縦に走る、約19キロの観光道路のこと。しかし春は、それに「海津大崎」までの4キロを加えた約23キロが「桜の回廊」にかわる。

ちなみに、湖岸に約4,000本の桜並木が続く「海津大崎」は、湖畔はもちろん、その豪華絢爛な様子を湖上から眺めようと、多くの遊覧船やカヌーが集まる、いかにも琵琶湖らしい桜の名所である。

そこに桜が咲くのは4月の中旬ころで、満開時期の週末は通行規制がかかり、「海津大崎」周辺は大混雑になる。そのため、ここはピークを少しずらした平日の早朝が狙い目だ。

なお「奥びわ湖パークウェイ」は、葛籠尾崎展望台から月出ゲート方向への一方通行となっており、紹介したルートを完走するには、国道161号を北上し、マキノの先から海津大崎のある県道557号に入って、そのまま延々と続く「桜の回廊」を経て、奥びわ湖パークウェイに合流する必要がある。また夜間（毎日午後8時～翌日午前8時）は通行止めになっている。



桜の絶景ロードは、花のトンネルをくぐって琵琶湖の畔を進む。

## 8. 絶景スポット7 東北 磐梯吾妻スカイライン

「福島まで来て、ココを走らねば帰れない」。訪れたドライバーをそんな気にさせる「磐梯吾妻スカイライン」は、高湯温泉から土湯峠間の山並みを縫うように走るワインディング・ロードで、「日本の道100選」に名を連ねる。平均標高1,350メートルの火山地帯が織りなす光景は、同じエリアにあるレークライン、ゴールドラインとは段違いのスケールで、磐梯山が持つ大自然を惜しむことなく見せつけてくれる。

その「磐梯吾妻スカイライン」全体が黄金に染まるのは10月中旬。沿線には井上靖氏が名づけた「吾妻八景」の碑が立っているが、「天狗の庭」から見える紅葉の情景は、もはや「別格」と呼ぶしかない。

また年間を通じて特筆すべきは「浄土平」<sup>じょうどだいら</sup>だろう。一切経山の火口から立ち上る噴煙が間近に見られる広大な火山砂礫地帯は、高湯温泉から入って「天狗の庭」を過ぎたしばらくのところにあるが、近づくにつれ、車窓風景は木のない荒涼とした世界に変わっていく。

ここには「磐梯吾妻スカイライン」最大の休憩施設である「浄土平レストハウス」があるので、クルマから降りて「ビジターセンター」を訪ねよう。

以上で筆者がお勧めする日本の絶景ドライブ・ロードの話は終了するが、最後に思い出してほしいのが冒頭の言葉だ。海でも山でも、絶景は峠を曲がり下ったすぐ先にある。

(いながき とものり)



磐梯山の山影から登る朝日を浴びた、レーシングコースのようなヘアピンカーブ。





写真中央、女性ライダーに囲まれている男性が、バイクの日一日親善大使の中野真矢氏。二輪レーサーとして、世界GPでも大活躍した。

スペシャル  
イベントレポート

## 「バイクの日 スマイル・オン2016」

～女性ライダーたちが、バイクの魅力と安全運転の大切さをアピール～

モーターマガジン社 神原 久

(写真撮影：モーターマガジン社 井上 雅行)

内閣府が、「8月19日」を「バイクの日」に制定したのは1989年（平成元年）のこと。もともとは二輪車の交通事故撲滅に向けた啓発活動の一環として定められたものだが、ここ数年来は、「バイク」という乗り物の楽しさを広く認知してもらうための象徴的役割も担っている。

そんな「バイクの日」を代表するイベント「バイクの日 スマイル・オン2016」が、8月21日（日）に東京・秋葉原（会場：ベルサール秋葉原）で開催された。主催は、一般社団法人 日本自動車工業会と一般社団法人 日本二輪車普及安全協会。内閣府や警察庁、警視庁交通部、上野警察署、万世橋警察署といった官公庁や、一般財団法人 全日本交通安全協会、一般社団法人 全国軽自動車協会連合会、一般財団法人 日本モーターサイクルスポーツ協会の後援も受けている。

### ドラッグレーサーふうからアドベンチャーモデルまで、多彩な展示車に「乗り放題」

今年も快晴に恵まれたこともあって、イベント会場は家族連れやカップルなど幅広い層の来場者で賑わった。

屋外の展示スペースでは、最新モデルのシートにだれでも自由に跨ることができる。いわゆるネイキッドモデルからドラッグレーサーふうマシン、レーシングスポーツ、アドベンチャーバイクと呼ばれるものまで、展示されるバイクのスタイルはとにかく多彩だ。熱心なのは、けっしてバイク好きの男性だけではない。スカート姿の女性が、「カッコイイ！」と目を輝かせながら、ライディングポーズを決める姿も見かけられた。

一方の屋内展示では、警視庁による安全運転啓発展示、グッドマナーJAPAN RIDERSの活動展

示、熊本県震災復興応援展示、そしてアニメ「ばくおん!!」PR展示の4つのブースがそれぞれに賑わいをみせていた。痛車のカラーリングが施された実車展示やフィギュアコレクションなどで「ばくおん!!」ブースの注目度はもちろん高いが、警視庁のブースもなかなか楽しげな演出が目を引く。ヒストリックな白バイの写真を並べたり、スタイリッシュなポスターを掲示したり…胸部プロテクターの展示について熱心に話を聞いている、若い女性の姿も見かけられた。

### 白バイ隊員をはじめ女性ライダーがパレードを実施。安全運転を明るくアピール

午前11時、開会式を皮切りにいよいよイベント・プログラムがスタートした。

開会式ではまず主催者を代表して、一般社団法人 日本自動車工業会から、二輪車特別委員会・委員長の柳 弘之氏（ヤマハ発動機 代表取締役社長）ほか、副委員長の青山真二氏（本田技研工業 取締役執行役員）、浅野 剛氏（川崎重工業 執行

役員）、新海達也氏（スズキ 二輪事業本部技術本部長）、渡部克明氏（ヤマハ発動機 取締役常務執行役員）と、常務理事 内藤政彦氏、一般社団法人 日本二輪車普及安全協会の専務理事 佐藤 忍氏が壇上に。続いて、内閣府政策統括官付 交通安全対策担当参事官 金子 健氏、警視庁交通総務課長 阿武孝雄氏、上野警察署署長 浅野昇一氏、万世橋警察署署長 横田静司氏ら、来賓の方々が上がった。

柳委員長は開会の挨拶の中で、「バイクという乗り物の安全、楽しさを理解してもらえるように頑張りたい」と、イベントへの思いを語った。続いて警視庁の阿武課長が、安全運転啓発だけでなく、信号制御の適正化や規制の見直しといった交通環境の改善にも取り組んでいることを説明。同時に、胸部プロテクター着用などに対するライダーの理解と協力を求めた。

その後、「バイクの日一日親善大使」の任命式に、元レーサーの中野真矢氏が登場。「このイベントを通して、日本のバイクをもっと好きになってほしい」と語りかけた。



日本の二輪車メーカー4社から、さまざまな種類の最新モデルたちが合計20台展示され、たいへんな賑わいを見せていた。別ブースでは白バイも展示されたが、そちらも自由に跨ることが可能とあって、人だかりが絶えない。



一般参加の女性ライダーは、約50名。白バイに先導されて、青空の下を秋葉原から御徒町までのんびりパレードを楽しんだ。

さらに開会式を盛り上げたのが、約50名の一般女性ライダーと、警視庁・女性白バイ隊「クイーンスターズ」の面々、そしてバイクの楽しさを知り尽くした美女タレント軍団だ。スポーツキャスターでもある水野裕子さんをはじめ、モデル・レポーターまでこなす延時成実さん、下川原利紗さんに加え、全日本トライアル選手権で活躍している小玉絵里加選手がステージに上がると、一気に華やかさが増していく。交通安全パレードの出陣式では、参加者代表の女性ライダー4人による安全運転宣言も行われた。

パレードの注目度も高い。沿道には大勢の観衆が集まり、思い思いにスマホで写メ撮りしている。オープンカーでニコニコ手を振っている小玉選手を見て、「あの美人はだれですか？」と、記者に尋ねてきた男性も。美人アスリートがモテるのは、オリンピックだけではなさそうだ。

### アニメ、安全、くまモンを通じて学ぶ「バイクとの楽しいお付き合い」

パレードの後は、ベルサール秋葉原のホールで4つのステージプログラムが催された。美少女系アニメ、女性白バイ隊員、くまモン、そして女性ライダーミーティングなど、ちょっと女性濃度が

高めなさまざまな視点から、バイクに対する興味をいろいろと刺激してくれた。

まずはアニメ「ばくおん!!」ステージ。西村純二監督と声優・内山夕実さん(天野恩紗役)のトークが絶妙で、笑い拍手が絶えない。作品をきっかけに免許を取ってバイクを買ったスタッフがいる、という実話にも驚いたが、来場したファンの中にも「ばくおん!!」との出会いをきっかけにバイクの免許を取得した猛者が数名いた。アニメのオーラ、恐るべし! だ。

内山さんらが演じるキャラクターたちの「バイク愛の熱量」は、作品を通してしっかりファンに届いたのだろう。「日々の暮らしの中にバイクが入り込んだほうが楽しいですね…」という西村監督のコメントも、心に響いた。

休憩をはさんで「警視庁交通安全教育ステージ」。こちらも、水野裕子さんとクイーンスターズのメンバーが、わかりやすく「楽しいバイクライフのための」安全運転のさまざまなヒントを教えてくれた。驚かされたのは、エアバッグ内蔵プロテクターの高性能。転倒時にパンパンに膨らんで胸だけでなく肩や腰なども守ってくれる。事故時の傷害防止に効果抜群だ。

続いて行われた「熊本地震復興応援ステージ」には、ヘルメットとライダースジャケットをま



アニメフィギュアの完成度の高さ（写真左上）やエアバッグ内蔵プロテクター（着ているのは水野裕子さん）の想定外のカッコよさなど（写真右上）、バイクの世界にもいろいろな新しいトレンドがある。さらにくまモンもパワフルにバイクの楽しさをアピールしてくれた（写真左下）。くまモン仕様のジョルノで、熊本に遊びに行きたくなりそう（写真右下）。

とったくまモンが登場。熊本県営業部長兼しあわせ部長として、被災地支援のお礼とともに、改めて熊本へのバイク旅の楽しさを紹介してくれた。

実は熊本県は、「ライダーが一番住みたい・乗りたい・行きたい県」にする…ことを目標としている。地方の人々の生活とバイクの関係は、もともととても密接だ。熊本県内では、条件付きながら一部の高校生にバイク通学が認められている。そのため日常的にバイクと付き合うためのマナー教育、交通安全教育といった取り組みも充実している。

さまざまな意味で二輪車は、地方活性化の起爆剤にもなりうる可能性を秘めている、と言えそうだ。

### トークセッションで見た？ 「2020年までに100万台」達成のカギ

くまモンに続いてステージには、美人ライダーたちが続々登場。華やかな雰囲気の中で、「女性ライダーミーティング」が行われた。

冒頭の10分ほどは親善大使の中野真矢氏が、バイクとの付き合い方や安全運転の心がけについ

て、小玉絵里加さんとトークを交わした。もともとレースシーンで「速さ」を競ってきたふたりだが、だからこそ公道ではより安全に走ることを心がけているのだとか。「ひとりよがりNG」とか「ライダー同士の仲間意識みたいなものを大切に」といったコメントが、当たり前のことなのだけれど、実はとても大切に思えた。

「女性」ミーティングということで、中野氏と入れ替わりに延時成実さんと下川原利紗さんが登場。ヘルメットというバイク乗りの宿命と女性の命・お化粧との悲劇的な関係や、ウェアとプロテクターをめぐる葛藤など「女子会トーク」は男子が聞いていても十分楽しい。

とくに延時さんの「私たちからもっといいマナーを発信して、東京でも熊本のように(ライダーにとって)いい環境を作りたい」という言葉に共感を覚えた。確かに、女性ライダーはさまざまな意味でトレンドリーダーになりうる。どちらかといえばバイクに対してネガティブイメージを抱いている人にとっても、女性からのアピールは穏やかに受け入れやすいことだろう。ましてこれほど



写真左から延時さん、小玉さん、下川原さん。バイクに乗っている若い女性は、トークも素晴らしくアクティブだ。

多くの女性が楽しんでいるという現実を見れば、バイクが想像以上にハードルが低くて、日常生活まで楽しくしてくれて、さらに新しい世界へと気軽に連れて行ってくれる乗り物だということを、

理解してもらえる良いきっかけになったはずだ。

平成25年、経済産業省と二輪車関連団体、および地方自治体が鈴鹿に集まってフォーラムを開催し、二輪車産業を健全に発展させ将来的な成長を目指した課題整理などを行った。そこでは具体的な目標のひとつとして、「2020年に国内販売100万台」が掲げられ、翌年には「二輪車産業政策ロードマップ」を取りまとめた。

一見すると、かなりハードルが高そうな目標ではある。けれど、その目標を達成する重要なカギを、実は女性がガッチリ握っているのかもしれない。「バイクの日 スマイル・オン2016」からは、彼女たちの熱気がしっかり伝わってきた。

(かんばら ひさし)

## 二輪4社合同記者会見 ～日本の二輪車市場の復活・復権をめざして～

「バイクの日 スマイル・オン2016」の開催に先駆けて、同じベルサール秋葉原のホールで「二輪4社合同記者会見」が行われた。出席者は、一般社団法人日本自動車工業会 二輪車特別委員会から、委員長の柳 弘之氏（ヤマハ）と、4人の副委員長の青山真二氏（ホンダ）、浅野 剛氏（カワサキ）、新海達也氏（スズキ）、渡部克明氏（ヤマハ）、そして同工業会の常務理事である内藤政彦氏だ。冒頭、柳委員長は日本市場全体としての厳しさに触れつつも、原付第二種と呼ばれる51ccから125ccまでの販売が好調であることを明らかにした。今後も、世界市場における持続的成長と、日本の二輪車市場の復活・復権をめざして、利用環境の改善やマナーの向上、安全運転の啓発活動などに取り組んでいく、という。とくに、高速道路料金の料金適正化や小型限定普通自動二輪車免許の取得を容易にするための制度改善といった、「バイクに乗りやすくする」法的整備の実現に、大いに期待したい。



写真左から、一般社団法人日本自動車工業会の内藤常務理事、二輪車特別委員会の浅野副委員長、青山副委員長、柳委員長、新海副委員長、渡部副委員長。計6名が合同記者会見に臨んだ。

## あの日の視線に思うこと

妹尾 聡太  
東京新聞



◇今から十数年前のこと。量販店での買い物を終えて駐車場に戻ると、見知らぬ女性が立ち止まってわが家のクルマを見つめていた。それもなんだか、じろじろと。「どうしましたか」。声をかけると女性は言った。「いや、三菱だと思って」。女性はそれ以上口にせず、決まりが悪そうに去っていった。

◇クルマは三菱自動車のランサーセディアワゴン。乗るのは主に両親だったが、機会があれば運転させてもらっていた。直線基調のすっきりとしたデザインで、荷室は使いやすく、乗り心地も快適だった。

◇駐車場で向けられた視線に最初は驚いた。でも「これも仕方ないかな」と思った。当時は大規模なりコール隠し問題が騒がれていたころ。この車種に関連の不具合はなかったものの、重大な問題を起こした企業の製品であることには違いなく、悪い印象を持たれるのも納得できた。

◇だが、気に入っていたし、三菱自製というだけで欠陥品のように見られるのは、いくらか悔しくもあった。だれにも似た経験はあると思うが、普段乗っている自動車やバイク、そのメーカーがほめられると、わがことのようにうれしくなる。反対に非難されれば、相応の理由があるにしても「まあ、そうは言っても」とかばいたくもなる。

◇運転免許を取ってからこれまで、FRのターボ車、高回転のNA車、四駆のステーションワゴンなどを乗り継いできた。ただ、記憶をたどって思い浮かぶのは、その性能などより、狭い車内

にひしめき合って乗った学生時代とか、未熟な運転で起こした自損事故とか、取材先で叱られて落ち込んだ帰り道とか。少し情けない部分も含めて、クルマが自分の人生の一部を形作ってくれていたのだと気づかされる。そうすると、人がわが身に甘いように、クルマにもまた甘くなるものだ。

◇今、周囲を見渡せば、そんな自己中心的な愛車語りの機会も減ろうとしている。都市部ではレンタカーやカーシェアリングが充実し、「クルマを所有しない」選択肢が説得力を増してきた。ウーバーのようなサービスはその動きを後押ししている。それに何より、お金がかかる。たまにしか運転しない人が「高い維持費を払ってまで持つ必要はない」と考えるのは合理的だ。私自身も昨年、所有していたスズキのスイフトスポーツを手放し、久々にクルマのない生活を送っている。

◇けれど、クルマと無機質な付き合いをしているようで、物足りなく感じるのも確かだ。かつての視線に多少の悔しさを覚えたのも、家族が日常的に運転していたからこそ。これがカーシェアリングだと、よほどでない限り「あの日借りた車種、悪く言わないで」とはならないだろう。今年発覚した燃費不正問題でも、関係メーカーには多くの批判とともに、一部のユーザーから励ましの声も寄せられたという。中にはきっと、クルマと自身の人生を重ね合わせた人もいないではないだろうか。

(せのお そうた)

# ホームページ Homepageのご案内

自工会インターネットホームページ  
[ info DRIVE ]

<http://www.jama.or.jp/>



## ●自工会会員各社のホームページアドレス

いすゞ自動車(株)	<a href="http://www.isuzu.co.jp/">http://www.isuzu.co.jp/</a>	富士重工業(株)	<a href="http://www.fhi.co.jp/">http://www.fhi.co.jp/</a>
川崎重工業(株)	<a href="http://www.khi.co.jp/">http://www.khi.co.jp/</a>	本田技研工業(株)	<a href="http://www.honda.co.jp/">http://www.honda.co.jp/</a>
スズキ(株)	<a href="http://www.suzuki.co.jp/">http://www.suzuki.co.jp/</a>	マツダ(株)	<a href="http://www.mazda.co.jp/">http://www.mazda.co.jp/</a>
ダイハツ工業(株)	<a href="http://www.daihatsu.co.jp/">http://www.daihatsu.co.jp/</a>	三菱自動車工業(株)	<a href="http://www.mitsubishi-motors.co.jp/">http://www.mitsubishi-motors.co.jp/</a>
トヨタ自動車(株)	<a href="http://www.toyota.co.jp/">http://www.toyota.co.jp/</a>	三菱ふそうトラック・バス(株)	<a href="http://www.mitsubishi-fuso.com/">http://www.mitsubishi-fuso.com/</a>
日産自動車(株)	<a href="http://www.nissan.co.jp/">http://www.nissan.co.jp/</a>	ヤマハ発動機(株)	<a href="http://global.yamaha-motor.com/jp/">http://global.yamaha-motor.com/jp/</a>
日野自動車(株)	<a href="http://www.hino.co.jp/">http://www.hino.co.jp/</a>	UDトラック(株)	<a href="http://www.udtrucks.co.jp/">http://www.udtrucks.co.jp/</a>

## ●自工会会友のホームページアドレス

ゼネラルモーターズ・ジャパン(株) <http://www.gmjapan.co.jp/>

## ●主な自動車関係団体のホームページアドレス

一般社団法人 日本自動車部品工業会	<a href="http://www.japia.or.jp/">http://www.japia.or.jp/</a>	一般社団法人 自動車再資源化協力機構	<a href="http://www.jarp.org/">http://www.jarp.org/</a>
一般社団法人 日本自動車車体工業会	<a href="http://www.jabia.or.jp/">http://www.jabia.or.jp/</a>	一般社団法人 日本自動車整備振興会連合会	<a href="http://www.jaspa.or.jp/">http://www.jaspa.or.jp/</a>
一般社団法人 日本自動車機械器具工業会	<a href="http://www.jamta.com">http://www.jamta.com</a>	一般財団法人 日本モーターサイクルスポーツ協会	<a href="http://www.mfj.or.jp/">http://www.mfj.or.jp/</a>
公益社団法人 自動車技術会	<a href="http://www.jsae.or.jp/">http://www.jsae.or.jp/</a>	一般社団法人 全国レンタカー協会	<a href="http://www.rentacar.or.jp/">http://www.rentacar.or.jp/</a>
一般財団法人 日本自動車研究所	<a href="http://www.jari.or.jp/">http://www.jari.or.jp/</a>	自動車基準認証国際化研究センター	<a href="http://www.jasic.org/">http://www.jasic.org/</a>
一般財団法人 日本自動車研究所 JNXセンター	<a href="http://www.jnx.ne.jp/">http://www.jnx.ne.jp/</a>	一般社団法人 日本中古自動車販売協会連合会	<a href="http://www.jucda.or.jp/">http://www.jucda.or.jp/</a>
一般社団法人 日本自動車販売協会連合会	<a href="http://www.jada.or.jp/">http://www.jada.or.jp/</a>	公益社団法人 全日本トラック協会	<a href="http://www.jta.or.jp/">http://www.jta.or.jp/</a>
一般社団法人 全国軽自動車協会連合会	<a href="http://www.zenkeijikyo.or.jp/">http://www.zenkeijikyo.or.jp/</a>	一般社団法人 日本自動車リース協会連合会	<a href="http://www.jala.or.jp/">http://www.jala.or.jp/</a>
一般社団法人 日本自動車会議所	<a href="http://www.aba-j.or.jp/">http://www.aba-j.or.jp/</a>	公益社団法人 日本バス協会	<a href="http://www.bus.or.jp/">http://www.bus.or.jp/</a>
一般社団法人 日本自動車連盟	<a href="http://www.jaf.or.jp">http://www.jaf.or.jp</a>	公益社団法人 全国通運連盟	<a href="http://www.t-renmei.or.jp/">http://www.t-renmei.or.jp/</a>
日本自動車輸入組合	<a href="http://www.jaia-jp.org/">http://www.jaia-jp.org/</a>	一般社団法人 日本自動車タイヤ協会	<a href="http://www.jatma.or.jp/">http://www.jatma.or.jp/</a>
一般社団法人 自動車公正取引協議会	<a href="http://www.aftc.or.jp/">http://www.aftc.or.jp/</a>	一般社団法人 自動車用品小売業協会	<a href="http://www.apara.jp/">http://www.apara.jp/</a>
一般社団法人 日本二輪車普及安全協会	<a href="http://www.jmpsa.or.jp/">http://www.jmpsa.or.jp/</a>	一般社団法人 日本自動車補修溶接協会	<a href="https://jarwa.or.jp/">https://jarwa.or.jp/</a>
公益財団法人 日本自動車教育振興財団	<a href="http://www.jaef.or.jp/">http://www.jaef.or.jp/</a>		
公益財団法人 自動車製造物責任相談センター	<a href="http://www.adr.or.jp/">http://www.adr.or.jp/</a>		
公益財団法人 自動車リサイクル促進センター	<a href="http://www.jarc.or.jp/">http://www.jarc.or.jp/</a>		

## JAMAGAZINE9月号 vol.50

発行日 平成28年9月15日

発行人 一般社団法人 日本自動車工業会

発行所 一般社団法人 日本自動車工業会

〒105-0012 東京都港区芝大門1丁目1番30号 日本自動車会館

広報室・電話番号 03(5405)6119



# JAMA

JAPAN AUTOMOBILE MANUFACTURERS ASSOCIATION, INC.

---

自工会インターネットホームページ「info DRIVE」URL <http://www.jama.or.jp/> 自動車図書館 TEL 03-5405-6139